



「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」資料の寄贈について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊田, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00004902">https://doi.org/10.24729/00004902</a>

## 【資料紹介】

## 「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」資料の寄贈について

伊田 久美子

2006年8月にインパクト出版会を通じて、1970年代に活動した女性グループ「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」の資料編纂に携わってこられた宮地佳子さんから、大阪府立大学女性学研究センターへの資料寄贈のお申し出をいただいた。宮地さんは「アジア婦人会議」の中心メンバーであった飯島愛子さんが亡くなられた後に残された膨大な資料を中心に、他のメンバーの資料も加えて「アジア婦人会議」資料の編纂作業を行ってこられたのである。インパクト出版会からは飯島愛子さんの一周忌に合わせてパンフレット20冊を復刻した『侵略＝差別と闘うアジア婦人会議 資料集成 1、2、3』、および飯島さんの自伝と主要論文を集めた『侵略＝差別の彼方へーあるフェミニストの半生』が宮地さんをはじめとする編集委員会によって刊行されている。

「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」とは、1970年8月に開催された女性たちによる大会名称であり、その後大会基調を理念として同名の運動体が結成され、その活動は1980年代前半まで続いた。資料集刊行委員会はその理念を以下の二点に集約している。

- ①戦後民主主義の特徴であった「婦人解放」を、その根源からとらえ直す。それは社会体制の変革のあとに続く婦人解放（論）ではなく、自己変革として差別問題をとらえることであり、私たち女性の受けている差別を、部落や沖縄県民や在日朝鮮人のそれと同質のものとして明らかにしたい。
- ②アジア的視点で今後の闘いのあり方を考えたい。

それは日米帝国主義のアジア侵略を私たちへの侵略ととらえ、私たち自身の個別の闘いを追求し、同時に運動の先進国としてのアジアから学ぶ。

資料集刊行委員会（2007年4月）

「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」は、田中美津さんを中心とする新宿リブセンターの運動とともに、70年代前半の日本の第2波フェミニズムを牽引してきた。主体としての女の登場、そして個人的なことの政治性を問う新しい運動のスタイルが、日本の女性運動にもたらした影響は計り知れない。

宮地さんは飯島さんが亡くなられるまで交流を続けてきたお一人であるが、お申し出のお電話をいただいた際に、飯島さんが、私も翻訳者のひとりであるダラ・コスタの家事労働論に非常に共鳴しておられたということをお聞きすることができた。是非読むようにと他のメンバーにも薦めておられ、また自分も「こういうふうに説明したらよかった」などと言っておられたというのであった。飯島さんの関心は労働、セクシュアリティ、ジェンダーの関係を問うものであり、搾取についての考察はダラ・コスタと共通するところが多い。

私もまた飯島愛子さんの論文に大きな影響を受けた一人である。大学に入りたての頃に読んだ雑誌「構造」の「おんな・生・革命」というリブ特集で、田中美津さんの「小さな火花も荒野を焼き尽くす」と題した衝撃的な論文と並んで、飯島さんは「男への『同化』でない婦人解放運動の確立のために」（『侵略＝差別の彼方へ』に所収）を書いておられたのである。私はそれらを熟読し、世界の見え方が変わった。多くの女たちが世界のあちこちで手探りの理論化を模索していたこの時期、私にとって幸運で決定的な出会いがいくつかあったが、飯島論文はそのひとつだった。

その飯島さんが大切に保管してこられた「アジア婦人会議」の資料集がこうして大阪府立大学女性学研究センターにやってくるようになったことには、何か「縁」のようなものを感じる、と宮地さんと話し合った。「飯島さんは自分の行きたいところに行ったんでしょうね」と宮地さんがおっしゃったのが心に残った。

2007年夏、資料が到着したとき、センターは府大学統合の余波により図書館内の仮住まい中であつた。2008年春によく新しい本拠に落ち着き、いただいた資料のコピー、保存の作業を行った。多くが飯島さんの手による整然としたガリ版印刷による古いビラや資料、活動のためのメモ、走り

書きなど、70年代の女たちの軌跡を、その日常的息遣いをも含んで伝える貴重な資料を眺めながら、当時を振り返ることは現在を知ることにつながるのだとの思いを強くしている。

2008年には大学院生のゼミで「アジア婦人会議」の会議資料を読み、議論した。労働、セクシュアリティ、育児、地域の運動、アジアの女性たちとの交流など、それぞれの関心から参照できる部分を中心に参照してもらうことができた。若い世代の研究者に70年代への歴史的関心が広がりつつある今日、多くの方々にこの貴重な資料を活用していただきたいと願っている。

以下に、資料集刊行委員会作成による資料の一覧を記す。

## 「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」ファイルの各巻内容一覧

分類	番号	表 題	主 な 内 容 ・ で き ご と
ア ジ ア 婦 人 会 議	1	会報 '70～'75年 (No1～46)	*資料について *各巻内容一覧 *活動年表 *編纂に係る謝辞 *会報
	2	会報 '76～'83年 (No47～69)	*会報
	3	偶＝親と闘う77婦人会議 '70年	*侵略＝差別と闘うアジア婦人会議大会(8月22・23日) *劉 彩品さん支援
	4	偶＝親と闘う77婦人会議 '71年	*三里塚闘争支援 *婦人労働分科会の中心的討論 *ソニー-岩本さん支援
	5	偶＝親と闘う77婦人会議 '72年1月-10月	*3・8 国際婦人デーテーマに関して *沖縄「返還」抗議
	6	偶＝親と闘う77婦人会議 '72年11・12月	*「日本帝国主義の女性支配と女性解放闘争」大会(11月3・4日) *労基法改悪 *勤労婦人福祉法 *優生保護法分科会、育児休業法分科会、保育の会設置
	7	偶＝親と闘う77婦人会議 '73年	*3・8 国際婦人デー *4・10婦人労働者集会 *三法案反対集会 *6・8 育児討論集会 *キーセン観光反対闘争 *優生保護法改悪反対闘争
	8	偶＝親と闘う77婦人会議 '74年	*3・8 国際婦人デー *キーセン観光反対集会 *討論-内ゲバについて *「私たちの春闘をかちとろう!!」4・10婦人労働者集会 *優生保護法 *育児休業法 *キーセン観光 *11・30 朝鮮総連改悪反対婦人労働者集会
	9	偶＝親と闘う77婦人会議 '75年1月-10月	*3・8 国際婦人デー *「差別・分析攻撃と闘おう!」4・10婦人労働者春闘討論集会 *育児休業法 *優生保護法 *経56の会 *日中・日韓女性交流
	10	偶＝親と闘う77婦人会議 '75年11・12月	*10・29-11・4国際婦人年行事への天皇出席に抗議行動 *11・23 「戦後婦人運動の総括と展望」大会 *事務所移転 (12・21)
	11	偶＝親と闘う77婦人会議 '76年	*'75大会基調をめぐる論争 *矛盾論学習グループ、北部地区会議発足 *4・11 「不況下における婦人労働を考える」集会 *3・8 「女性解放と天皇制」集会 *天皇制を考える連続講座 *育児休業法学習会 *11・9天皇在位50年式典抗議デモ (共同行動)
12	偶＝親と闘う77婦人会議 '77～'79年	*アジア婦人会議の在り方をめぐる矛盾論学習会と運営委員会との論争継続 '77-'78年 *南部地区会議 *千葉地域会議 *天皇制パンフ発行 *日韓共同行動 *日中友好婦人の翼 (訪中国) 参加 *三里塚復農・産直開始 *3・8 国際婦人デー *4・10 '78-6 *連絡通信費納入者全員の選択に基づき二つに分かれる。以後運営委員会の方針で活動を継続 *パンフ「再出発をめざす」発行 '79年 *会報終刊 (No69・80年)	
中 心 に な る	13	アジア婦人会議以外 '70リブ等	*リブ系 (ぐるーぷ闘う女-リブ新宿センター) *党派系 (新左翼諸党派)
	14	アジア婦人会議以外 '71-'72年リブ等	
課 題 別 運 動	15	蓮見さん 金子さん '72-'73年	*沖縄密約事件 *種別闘争(龍崎) *三石職業病闘争 *経56の会・闘
	16	キーセン観光 '73-'74年 No.1	
	17	キーセン観光の2 '73-'74年 No.2	
	18	育児法 '73-'76年 3・8 国際婦人デー '73-'76年	
	19	優生保護法 '72～'75年	
	20	集会託児 '75～'76年	
	21	飯島愛子論文集 '69～'04年	*'70年まで *'70年以降 (アジア婦人会議)
70 年 婦 以 前 運 動	22	品川区内婦人運動 '62～'64年	
	23	各地区婦人運動 '64～'66年	
	24	ベトナム反戦運動 '69年まで	
	25	婦人労働 '68～'69年	
	26	母親大会 '66～'69年	
	27	交流会運動 '66～'69年	
	28	安保を闘う婦人連絡会 '69年	